

9月1日は「防災の日」



備えは防災のすべての基本

家具類の転倒・落下に備えていますか？

「正常化の偏見」という言葉聞いたことがありますか？これは、自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過少評価したりするという誰もが持っている人の特性を言います。災害に対して、人は楽観的です。災害が起こっても、「大したことにはならないうだろう」、「自分は大丈夫だろう」と思います。

阪神・淡路大震災の時に、普段動かないような大きな家具やテレビが飛んできてケガをされた方は、全負傷者の46%、新潟県中越地震では、41%いました。東京消防庁の調査では、実際に家具類の転倒・落下への対策を実施している人は、30%弱とされています。しかし、これでいいのでしょうか。

防災の備えは自分以外の人のためでもある

防災とは、「自分の大切な人を守ることである」と言われていますが、自分や家族が被災しないことにより、一人でも多くの人を救助できます。

地震においては、できる限りの対策で、被災者となることなく地域の人を救助にあたるのができたり、被害を最小限にして、救助する人の労力を少なくできます。

また、風水害においては、避難指示等が発令されれば速やかに避難することにより、救助する人を危険な状況に巻き込むことがなくなります。

このように、防災の備えは、自分や家族のため以外にも、他の人のためでもあります。

防災の備えも、自助・共助・公助の基本です

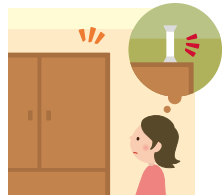
被災地域へ義援金や救済物資を送ることも他の人のために重要ですが、防災の備えも他の人のために重要であり、「自助」「共助」「公助」の基本となる事項です。

このため、個人として、周囲の環境整備の他に、正しい知識を得たり、避難場所の確認、自主防災組織等の訓練に参加することなどが必要です。

自助・共助・公助の基本事項

①周囲の環境整備

家屋の耐震化・家具の転倒防止・備蓄などをしましょう。



②正しい知識

いざという時に正しく行動できる知識を得ましょう。また、避難場所の確認をしておきましょう。



③防災訓練への参加

近所に住む人たちの顔を知り、お互いに助け合える関係を構築しましょう。

